平成27(2015)年度

埋蔵文化財緊急発掘調査概報

片山荒池遺跡
岸部中遺跡B地点
高畑遺跡
七尾瓦窯跡
垂水遺跡

平成28(2016)年3月

吹田市教育委員会

序

吹田市では、昭和49（1974）年度の国庫補助事業による埋蔵文化財発掘調査の実施以来、市内各所において数々の発掘調査を行ってまいりました。これらの発掘調査からは、吹田の歴史を知る上で重要な手掛かりとなる資料を数多く得てきました。そして、その成果につきましては、報告書の刊行をはじめ、博物館での展示・講座などを通じて、機会をもって市民の皆様にお伝えできるように努めております。

平成27（2015）年度おきましては、国庫補助事業として５件（２月末現在）の発掘調査を実施しました。これらの調査を行うにあたっては、事業者をはじめとする多くの方々のご協力を得ております。本市教育委員会ではこれからも文化財の保護行政により一層強く取り組みたいと考えております。市民の皆様におかれましても本市の文化財保護行政に対して、今後ともご理解・ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成28（2016）年３月

吹田市教育委員会
教育長　梶　谷　尚　義

例　言

1．本書は平成27（2015）年度国庫補助事業として実施した、片山荒池遺跡、岸部中遺跡Ｂ地点、高畑遺跡、七尾瓦窯跡、垂水遺跡（２月末現在）の発掘調査をまとめたものである。

2．発掘調査地点は次のとおりである。

片山荒池遺跡	片山町１丁目2309－４、－11
岸部中遺跡Ｂ地点	岸部中３丁目941－１、941－３の一部
高畑遺跡	昭和町1466－３
七尾瓦窯跡	岸部北５丁目51の一部
垂水遺跡	垂水町１丁目794－３

3．発掘調査の整理作業は吹田市岸部北４丁目10番１号、吹田市立博物館で実施し、資料の保管も同所にて行っている。

4．本書の執筆は、第４章及び第６章を田中充徳が行い、他を賀納章雄が行った。

発掘調査参加者名簿

調査主体	吹田市教育委員会
調査指導	大阪府教育委員会文化財保護課
調査担当	吹田市教育委員会文化財保護課　西本安秀、賀納章雄、田中充徳、堀口健二
調査員	花﨑晶子、佐藤健太郎
調査補助員	木舩安紀子

目　次

第１章　平成27（2015）年度埋蔵文化財発掘調査について …… 1
第２章　片山荒池遺跡の発掘調査 …… 3
第３章　岸部中遺跡Ｂ地点の発掘調査 …… 5
第４章　高畑遺跡の発掘調査 …… 9
第５章　七尾瓦窯跡の発掘調査 …… 15
第６章　垂水遺跡の発掘調査 …… 17

挿図目次

第１図　発掘調査地点位置図 …… 2
第２図　片山荒池遺跡調査地周辺図 …… 3
第３図　調査区平面図 …… 4
第４図　土層断面図 …… 4
第５図　岸部中遺跡Ｂ地点調査地周辺図 …… 5
第６図　調査区平面図 …… 6
第７図　土層断面図 …… 6
第８図　遺構平面図 …… 7
第９図　出土遺物実測図 …… 8
第10図　高畑遺跡調査地周辺図 …… 9
第11図　調査区平面図 …… 10
第12図　土層断面図 …… 11
第13図　遺構平面図 …… 12
第14図　遺構内土層断面図 …… 13
第15図　出土遺物実測図 …… 14
第16図　七尾瓦窯跡調査地周辺図 …… 15
第17図　調査区平面図 …… 16
第18図　土層断面図 …… 16
第19図　垂水遺跡調査地周辺図 …… 17
第20図　調査区平面図 …… 18
第21図　土層断面図 …… 18

図版目次

図版1　片山荒池遺跡1 …… 19
図版2　片山荒池遺跡2 …… 20
図版3　岸部中遺跡B地点1 …… 21
図版4　岸部中遺跡B地点2 …… 22
図版5　岸部中遺跡B地点3 …… 23
図版6　岸部中遺跡B地点4 …… 24
図版7　岸部中遺跡B地点5 …… 25
図版8　岸部中遺跡B地点6 …… 26
図版9　岸部中遺跡B地点7 …… 27
図版10　岸部中遺跡B地点8 …… 28
図版11　岸部中遺跡B地点9 …… 29
図版12　岸部中遺跡B地点10 …… 30
図版13　岸部中遺跡B地点11 …… 31
図版14　高畑遺跡1 …… 32
図版15　高畑遺跡2 …… 33
図版16　高畑遺跡3 …… 34
図版17　高畑遺跡4 …… 35
図版18　高畑遺跡5 …… 36
図版19　高畑遺跡6 …… 37
図版20　高畑遺跡7 …… 38
図版21　高畑遺跡8 …… 39
図版22　高畑遺跡9 …… 40
図版23　高畑遺跡10 …… 41
図版24　高畑遺跡11 …… 42
図版25　高畑遺跡12 …… 43
図版26　高畑遺跡13 …… 44
図版27　七尾瓦窯跡1 …… 45
図版28　七尾瓦窯跡2 …… 46
図版29　垂水遺跡1 …… 47
図版30　垂水遺跡2 …… 48
図版31　垂水遺跡3 …… 49

第１章　平成27（2015）年度埋蔵文化財発掘調査について

平成27（2015）年度は、片山荒池遺跡、岸部中遺跡Ｂ地点、高畑遺跡、七尾瓦窯跡、垂水遺跡の５遺跡５件（２月末現在）の発掘調査を実施した。

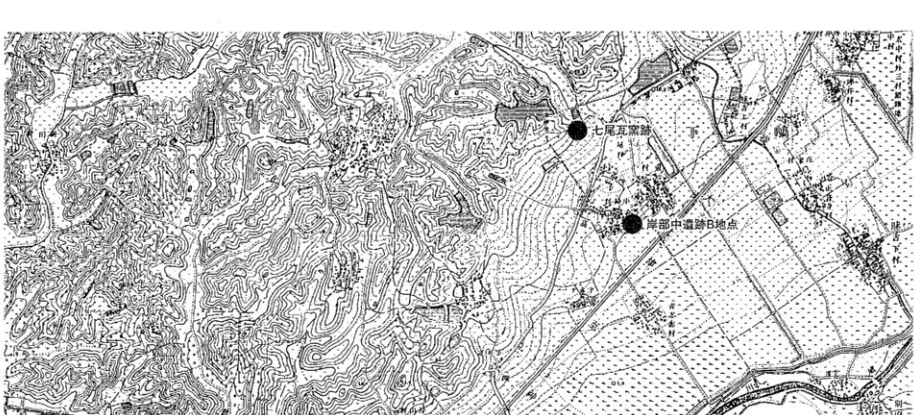
片山荒池遺跡は、片山町１丁目に位置し、平成15（2003）年度、大阪府住宅供給公社片山団地建替事業に伴い大阪府教育員会が実施した試掘調査によって発見された遺跡である。この発見により財団法人大阪府文化財センターが行った発掘調査では、縄文時代の石鏃がもっとも古い時期の遺物として確認されたが、古墳時代の遺物が主体となり出土し、古代から中世にかけての遺物も認められている。そして、遺構については、古墳時代の掘立柱建物跡・土坑群、中近世の池等が検出されている。また、埴輪片が20点ほど出土していることから、周辺に古墳が存在していた可能性が指摘されている。今回の発掘調査は、片山荒池遺跡の東側周辺地に当たる片山町１丁目2309-4、-11において試掘調査として実施したものである。

岸部中遺跡Ｂ地点は、岸部中３丁目に所在し、今回の発掘調査で新たに発見された遺跡である。もともと調査地点（岸部中３丁目941-1、-3の一部）は、西側約100ｍに位置する岸部中遺跡の周辺地に当たることから試掘調査を実施した。その結果、古墳時代から中世にかけての遺構・遺物が確認され、新たに埋蔵文化財包蔵地として周知されるに至った遺跡である。

高畑遺跡は、昭和町に位置する古墳時代・平安時代・中世の遺跡である。平成８（1996）年度に住宅工事時の立会により発見され、その後、試掘調査等により包蔵地の範囲が拡大してきた。これまでの調査では、平安時代・中世の掘立柱建物跡をはじめ、溝や土坑等の遺構が確認されている。今回の調査については、高畑遺跡の北西部に当たる昭和町1466-3において確認調査として実施したものである。

七尾瓦窯跡は、岸部北５丁目に所在する奈良時代の瓦窯跡である。後期難波宮への瓦を供給することを目的に操業され、登窯６基、平窯１基が現存し、昭和54（1979）年度に国史跡に指定されている。史跡隣接地での発掘調査では、その工房に関すると考えられる掘立柱建物跡や溝等の遺構が確認されている。また、史跡周辺の調査では、奈良時代だけでなく、縄文時代から中世にかけての遺物も出土している。今回の調査は、七尾瓦窯跡の東側周辺地に当たる岸部北５丁目51の一部において試掘調査として実施したものである。

垂水遺跡は、円山町・垂水町１丁目・２丁目一帯、千里丘陵から平野部にかけて広がる旧石器時代から中世の遺跡である。昭和初期の宅地開発時に弥生土器が発見されたことにより知られることとなった。昭和48（1973）年度から昭和51（1976）年度にかけて関西大学・本市が行った発掘調査では、丘陵上において弥生時代の竪穴式住居跡や掘立柱建物跡が確認され、高地性集落跡として知られている。また、垂水遺跡は、弥生時代の資料ばかりでなく、ナイフ形石器・彫器等の旧石器や丘陵下で実施された発掘調査において古墳時代の熔解途中の銅鏡片が出土するなど、興味深い資料がある。今回の調査は、垂水遺跡の西側周辺地に当たる垂水町１丁目794-3において試掘調査として実施したものである。



第1図　発掘調査地点位置図［1：25,000　明治18（1885）年測量地図］

第２章　片山荒池遺跡の発掘調査

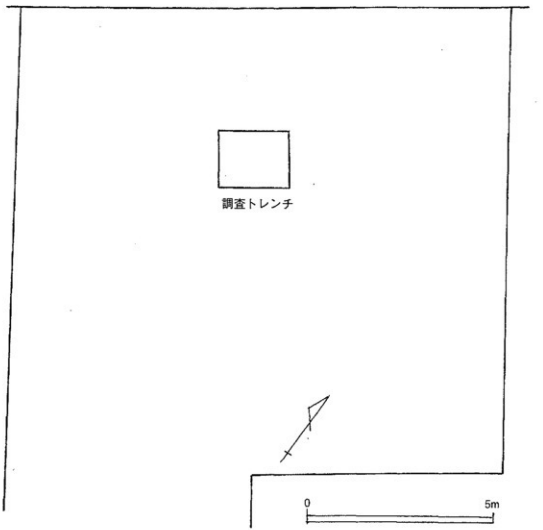
１　調査の経過

今回の発掘調査は、個人住宅の建築に伴い事前に実施したものであり、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、平成27（2015）年７月１日に調査トレンチを１ヶ所（約３㎡）設定し、重機を用いて掘削を行い実施した。

２　調査の成果

調査トレンチを地表面から約1.3mの深さまで掘削したところ、現代盛土層［第１層］以下、暗灰色砂質土層［第２層］、青灰色砂質土層［第３層］、黄褐色粘土層［第４層］、橙褐色粘土層［第５層］、淡黄褐色粘土層［第６層］の堆積が認められたが、明確な遺構・遺物については確認されなかった。

第２図　片山荒池遺跡調査地周辺図［1：2,500］



第３図　調査区平面図

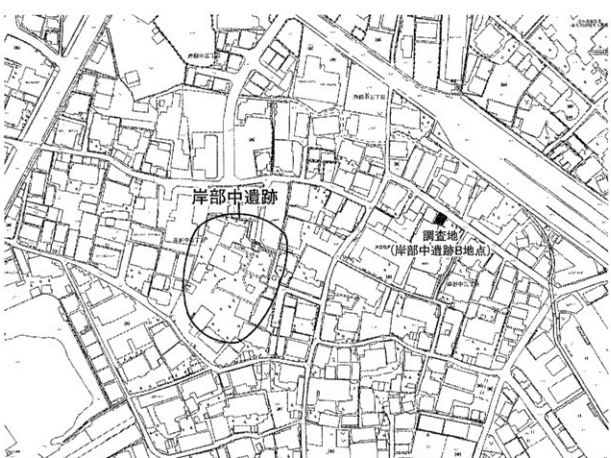
第４図　土層断面図

第３章　岸部中遺跡Ｂ地点の発掘調査

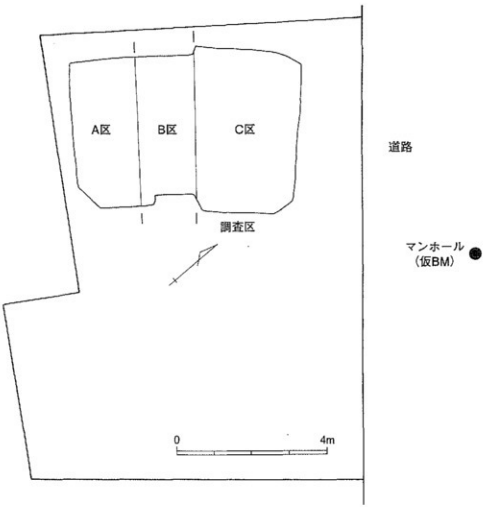
１　調査の経過

今回の発掘調査は、岸部中遺跡の東側周辺地に当たる当調査地において個人住宅の建築が計画されたため事前に実施したものである。まず、平成27（2015）年８月12日に、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に試掘トレンチを１ヶ所設定し、重機を用いて掘削を行った。その結果、地表面下約80㎝の深さで、古墳時代・中世の遺物とともに落ち込み跡を検出し、遺構・遺物の包含を確認することができた。そのため、予定の建築工事が実施された場合、一部遺跡が破壊されると判断されたため、工事によって遺跡に影響を及ぼす範囲について新たに調査区（約23㎡）を設定し、同年８月19日から21日にかけて重機及び人力にて掘削を行い、拡大調査を実施した。

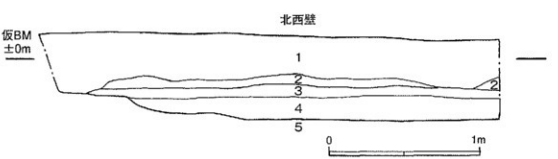
拡大調査を実施するにあたっては、掘削土の置き場確保のため、調査区を３分割し、南側からＡ区、Ｂ区、Ｃ区として、Ａ区より１区画ずつ掘削及び図面記録作成、写真撮影、埋戻し等の作業を行った。



第５図　岸部中遺跡Ｂ地点調査地周辺図［1：2,500］



第６図　調査区平面図



土層序
1．現代盛土層
2．灰色砂質土層
3．灰褐色砂質土層
4．灰褐色砂質土（やや明）層
5．橙灰色砂質土層［地山層］

第７図　土層断面図

2　調査の成果

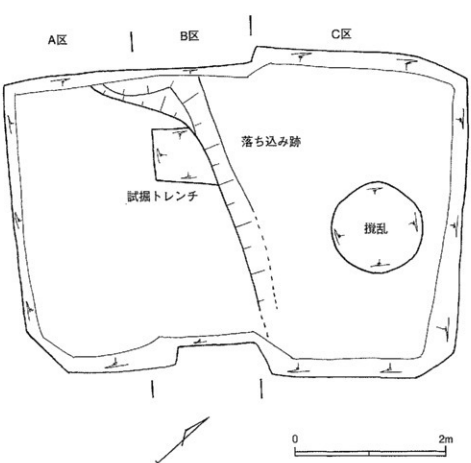
(1) 基本土層序

調査区の地盤面は北東側道路面より40～50cm程高くなるが、調査区を掘削したところ、現代盛土層［第1層］以下、灰色砂質土層［第2層］、灰褐色砂質土層［第3層］、灰褐色砂質土(やや明)層［第4層］が堆積し、現地表面から約80～85cmの深さで、地山層である橙灰色砂質土層［第5層］の堆積が認められた。

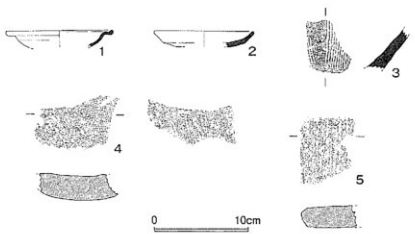
これら土層のうち、第4層内において、古墳時代・平安時代・中世のものと考えられる須恵器、土師器等の遺物が包含されているのを確認した。

(2) 検出遺構

地山層である橙灰色砂質土層をベース面として、第4層である灰褐色砂質土（やや明）層が、調査区の北側から西側に向かって約30cmの深さで落ち込む状況が確認できた。その堆積状況を平面的にみると、その落ち込み肩は「く」の字状に屈曲し、北側から西側に向かって落ち込んでいた。そして、落ち込み肩の方向については、概ねN70°W、及びN60°Eの方位をもってのびていた。



第8図　遺構平面図



第９図　出土遺物実測図

この落ち込み肩の「く」の字状に曲がる平面形をみると、おそらく、これは自然地形ではなく、人為的に形成された落ち込み跡であろうと考えられる。そして、第４層の土質を観察すると、かつて耕作土であった可能性が考えられ、おそらく、第４層は中世以前の耕作土であり、「く」の字状に曲がる落ち込み肩の形状はかつての耕地区画に沿うものであり、そこに古墳時代から中世にかけての遺物が包含していったのではないかと考えられる。

(3) 出土遺物

出土した遺物については、古墳時代の須恵器、平安時代の土師器・黒色土器、古代の瓦、中世の須恵器・土師器・瓦器、時期は不明確だが白磁等の破片があった。これらは小片のものばかりで、図化できたものは５点のみとなる。

１・２は、土師器皿である。１は、「て」の字状口縁の皿で、10世紀中から後半にかけてのものと考えられる。２は、口縁部がやや強くヨコナデされ、口縁部が外方へのびる。12世紀後半頃のものとみられる。

３は、須恵器擂鉢である。残存部分は体部下部の小片であるが、２㎝幅９条の卸し目が認められる。14～15世紀頃のものであろうか。

４・５は、平瓦片である。４は、凹面に布目痕、凸面に縄目痕が認められる。５は、凸面に縄目痕が認められるが、凹面については摩滅で調整は不明である。

第４章　高畑遺跡の発掘調査

１　調査の経過

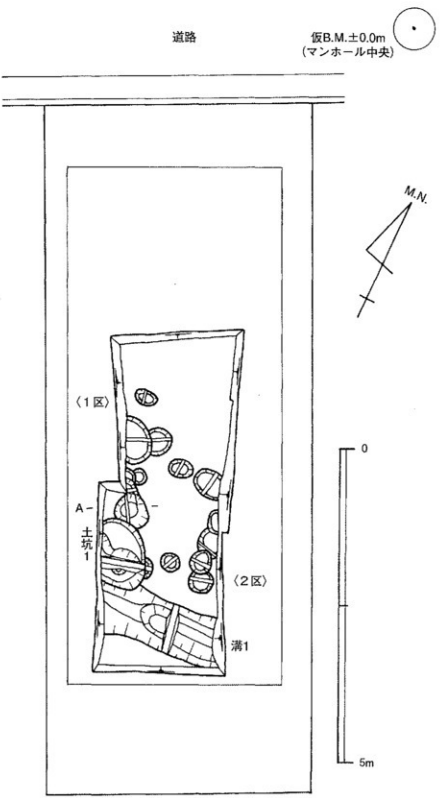
今回の発掘調査は、高畑遺跡（古墳時代・平安時代・中世）にあたることから、住宅建築工事に伴い、遺構・遺物の包蔵の有無を確認することを目的に、事前に調査を実施したもので、平成27年９月７日に調査区（１区、約5.8㎡）を設定して重機及び人力を用いて掘削し、９月８日には遺構が濃密に分布する南側に調査区（２区、約6.1㎡）を拡大した。

２　調査の成果

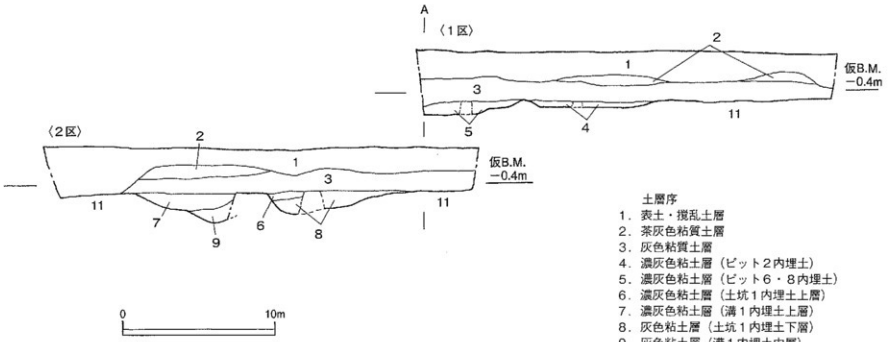
(1) 土層序

調査区（１区・２区）を掘削したところ、表土・攪乱土層（第１層）以下、茶灰色粘質土層（第２層）、続いて灰色粘質土層（第３層）がほぼ水平に堆積し、その下層の黄色粘土層（第11層、G.L.約－0.45m）上面からは、１区ではピット９基（P1～9）、２区ではピット６基（P10～15）、土坑１基、溝１条が確認された。

第10図　高畑遺跡調査地周辺図［1：2,500］

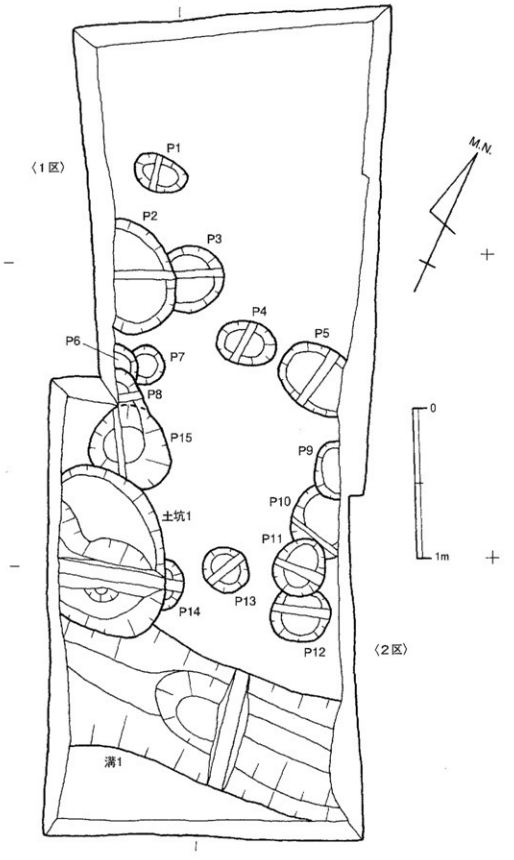


第11図　調査区平面図

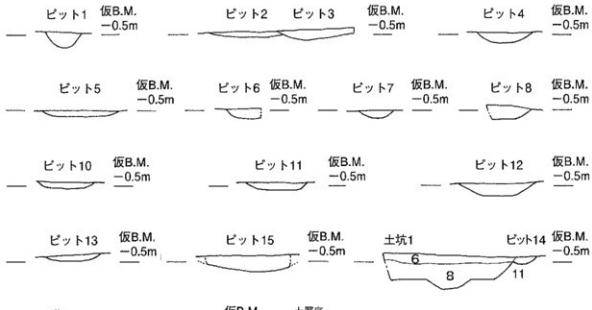


土層序
1．表土・撹乱土層
2．茶灰色粘質土層
3．灰色粘質土層
4．濃灰色粘土層（ピット2内埋土）
5．濃灰色粘土層（ピット6・8内埋土）
6．濃灰色粘土層（土坑1内埋土上層）
7．濃灰色粘土層（溝1内埋土上層）
8．灰色粘土層（土坑1内埋土下層）
9．灰色粘土層（溝1内埋土中層）
10．灰色粘土層（溝1内埋土下層）
11．黄色粘土層（地山層）

第12図　土層断面図


〈1区〉
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P15
P9
P10
土坑1
P11
P13
P14
P12
〈2区〉
溝1
M.N.
0
1m

第13図　遺構平面図



土層序

ピット1西壁　濃紫灰色粘土層（炭、土器片、橙褐色粘土塊を含む）
ピット2南壁　灰色粘土層（黄色粘土塊を含む、黒色小粒多く含む）
ピット3南壁　濃灰色粘土層（黒色小粒多量に含む）
ピット4東壁　濃灰色粘土層（黒色小粒多く含む）
ピット5東壁　濃灰色粘土層（炭、黄色粘土塊を含む）
ピット6南壁　濃灰色粘土層
ピット7西壁　濃灰色粘土層（黄色粘土塊を含む）
ピット8北壁　濃灰色粘土層（黒色小粒多量に含む）
ピット10南壁　濃灰色粘土層
ピット11北壁　濃灰色粘土層（少し濃い）
ピット12南壁　濃灰色粘土層（黄色粘土塊を含む）
ピット13西壁　濃灰色粘土層
ピット14北壁　濃灰色粘土層（少し淡い）
ピット15西壁　濃灰色粘土層（少し淡い）
土坑1北壁　6　濃灰色粘土層
8　灰色粘土層（土器含む）
溝1西壁　7　濃灰色粘土層
9　灰色粘土層（土器含む）
10　灰色粘土層（土器含む、黄色粘土塊を含む）
11　黄色粘土層（地山層）

第14図　遺構内土層断面図

(2) 検出遺構

ア　ピット

ピットはいずれも正円形または楕円形を呈しており、このうちピット２・４・５・７・９～14は概ね直径約28～43cm・深さ約３～７cmを、大型のピット３は直径約77cm・深さ約８cm、ピット15は直径約57cm・深さ約９cmを測った。これらのうちピット２・５・12から土師器が、ピット４からは土師器及び須恵器甕の破片が出土したほか、調査区の最も北側で確認されたピット１は直径約19～35cmの楕円形で深さ約８cmを測る比較的小規模のものであったが、濃紫灰色粘土の埋土内からは焼土や炭が出土した。

イ　土坑

土坑１については直径約100cm・深さ約18cmを測るもので、埋土下層（第８層）上面より土師器甕及び須恵器脚部の破片が出土し、埋土下層（第８層）内より土師器甕及び須恵器脚部・壺口縁部の破片が出土した。

第15図　出土遺物実測図

ウ　溝

溝１は２区南端で検出され、幅約78～84cm、深さ約13～30cmを測り、N－86.5°－Eとほぼ東西方向を示していた。この溝は調査区の中央付近で西側に浅く東側に深くなっており、埋土は西側２層・東側３層に区分できた。埋土上層（第７層）では遺物の出土はみられなかったが、中層（第９層）では須恵器杯蓋・脚部等が、最下層の灰色粘土層（第10層）では布留式土器甕が出土するなど、土層により異なる時期の遺物の包含が確認された。

(3) 出土遺物

第10層上面及び各遺構内からは古墳時代の土師器甕、須恵器杯蓋・壺・高杯等の破片が多数出土した。溝においても各層から布留式土器甕、須恵器杯蓋等が出土した。

１は溝１内埋土下層（第10層）から出土した布留式土器甕で、口径約19.9cm（復元値）、残存高約５cmを測り、古墳時代前期頃のものと考えられる。２は溝１内埋土中層（第９層）から出土した須恵器杯蓋で、口径11.8cm、器高5.3cmを測り、Ⅱ－１型式６世紀前半頃のものと考えられる。

今回出土した遺物は時期の異なるものが含まれているが、概ね古墳時代前期から後期のものと考えられる。

今回確認された遺構については、いずれも黄色粘土層（第11層）上面で検出された。概ね約３cm～９cmと浅く、比較的深い土坑１で約18cm、溝１でも約13～30cmであることから、本来の生活面はすでに削平され、遺構の底部がかろうじて残る状況を検出したと考えられるが、それにも関わらず、調査区南側では遺構が濃密に分布し、重複する多くのピットを検出することができた。これらピットの配置であるが、ほぼ東西あるいは南北方向を示し、溝１と直交あるいは併走している状況がみられた。調査面積が狭小であり、これらの遺構の性格を明らかにすることは難しいが、配置に方向性がみられることから、建物等の何らかの施設が存在した可能性が考えられる。なお、出土遺物から古墳時代前期から後期にかけて機能していた遺構を検出したものと考えられる。

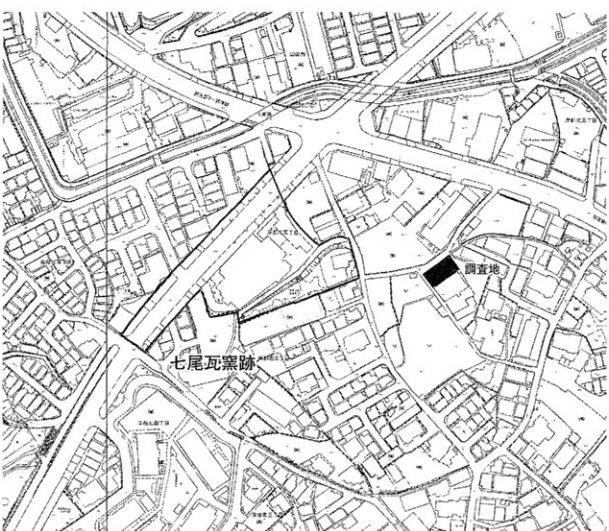
第５章　七尾瓦窯跡の発掘調査

１　調査の経過

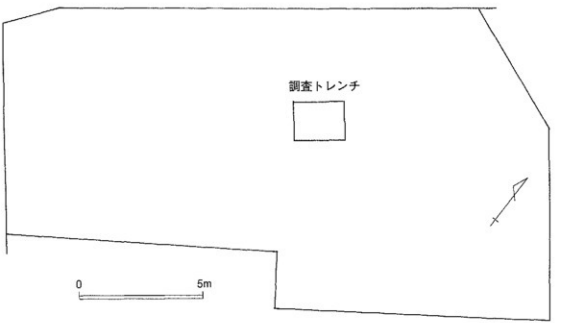
今回の発掘調査は、個人住宅の建築に伴い事前に実施したものであり、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、平成27（2015）年11月26日に調査トレンチを１ヶ所（約3.4㎡）設定し、重機を用いて実施した。

２　調査の成果

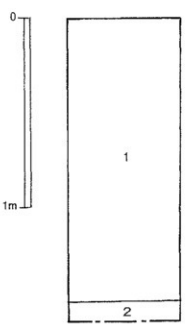
調査トレンチを掘削したところ、約1.5mの深さまで現代盛土層［第１層］が堆積し、その下位に暗灰色砂質土層［第２層］の堆積が認められたが、明確な遺構・遺物は確認されなかった。



第16図　七尾瓦窯跡調査地周辺図［1：2,500］



第17図　調査区平面図



第18図　土層断面図

第６章　垂水遺跡の発掘調査

１　調査の経過

今回の発掘調査は、垂水遺跡（旧石器時代～中世）の周辺地にあたることから、住宅建築工事に伴い、遺構・遺物の包蔵の有無を確認することを目的に事前に調査を実施したもので、平成27年11月27日に調査トレンチを１か所（T1、約3.6㎡）設定し、重機を用いて行った。

２　調査の成果

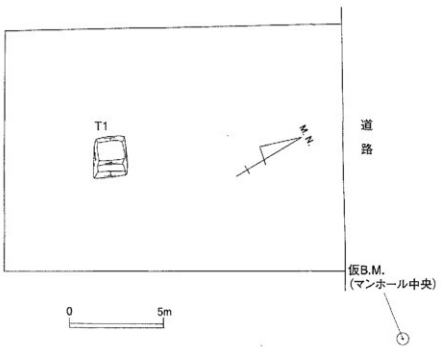
調査トレンチ（T1）を掘削したところ、地表面から約1.8ｍの深さまで現代盛土層（第１・３層）が堆積していた。この間に流れ込みと考えられる黄橙色シルト層（第２層）が挟まれていたことから、盛り土は２時期にまたがって行われたと考えられる。

次に、地表面から２ｍを超える深さより旧耕土層（暗灰色粘質土層、第６層）が検出された。この層は40cm以上の厚さがあり、掘削深度内では色調や土質等に変化は見られなかった。この第６層上面には畦畔もしくは畝と思われる起伏があり、また上層は地下水を含む青灰色の砂質土層（第４層）及び粘質土層（第５層）で覆われていた。これらのことから、当調査地は近年まで水田もしくは畑地であったが、土砂が流入した後、農地としての機能を回復するこ

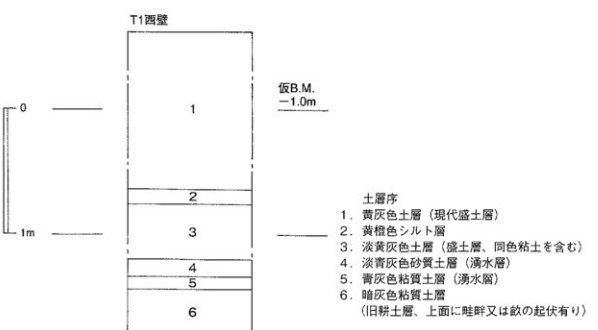
第19図　垂水遺跡調査地周辺図［1：2,500］

となく数回に分けて盛り土され、現在の住宅地になったと考えられる。

なお、今回の調査では、最終的に地表面から約2.4mの深さまで掘削したが、これらの土層から明確な遺構・遺物等の包蔵を確認することはできなかった。



第20図　調査区平面図



第21図　土層断面図

図版1　片山荒池遺跡1

調査地近景（北東から）

調査トレンチ近景（南西から）

図版2　片山荒池遺跡2

調査トレンチ近景（西から）

調査トレンチ北壁（南から）

図版3　岸部中遺跡B地点1

調査地近景（南から）

試掘トレンチ近景（南から）

図版4　岸部中遺跡B地点2

試掘トレンチ北西壁（南東から）

試掘トレンチ北東壁（南西から）

図版5　岸部中遺跡B地点3

A区掘削前近景（北東から）

A区掘削作業風景（北から）

図版6　岸部中遺跡B地点4

A区近景（南東から）

A区近景（東から）

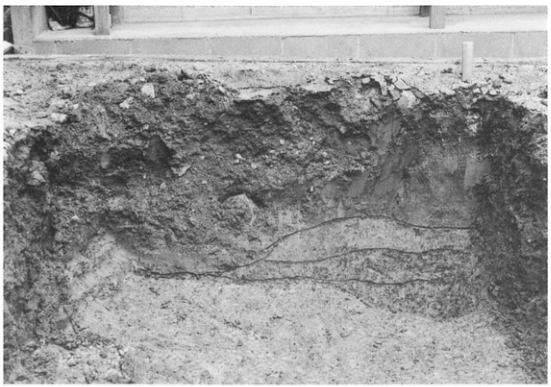
図版7　岸部中遺跡B地点5

A区落ち込み跡（試掘前・南東から）

A区落ち込み跡（南から）

図版8　岸部中遺跡B地点6

A区落ち込み跡近景（南東から）



A区北西壁（南東から）

図版9　岸部中遺跡B地点7

B区掘削作業風景（南東から）

B区落ち込み跡（掘削前・南東から）

図版10　岸部中遺跡B地点8

B区落ち込み跡（南東から）

B区北西壁（南東から）

図版11　岸部中遺跡B地点9

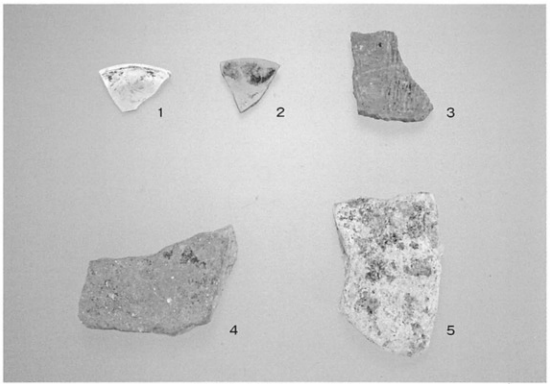
C区掘削作業風景（南から）

C区落ち込み跡（掘削前・南東から）

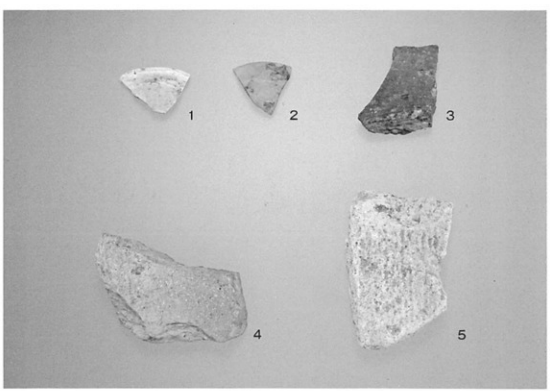
図版12　岸部中遺跡B地点10

C区落ち込み跡（南から）

C区北西壁（南東から）



出土遺物（土器内面・瓦凹面）

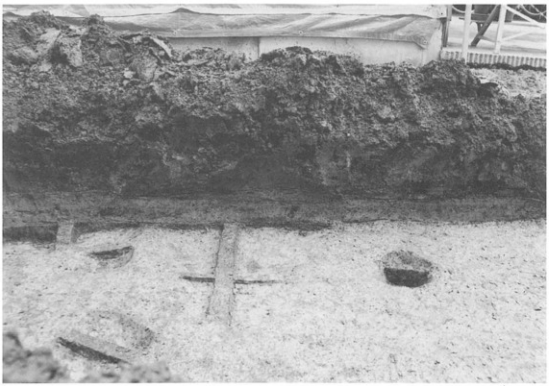


出土遺物（土器外面・瓦凸面）

図版14　高畑遺跡1

調査地近景（南から）

調査区掘削風景（北から）



1区西壁（東から）

2区西壁（東から）

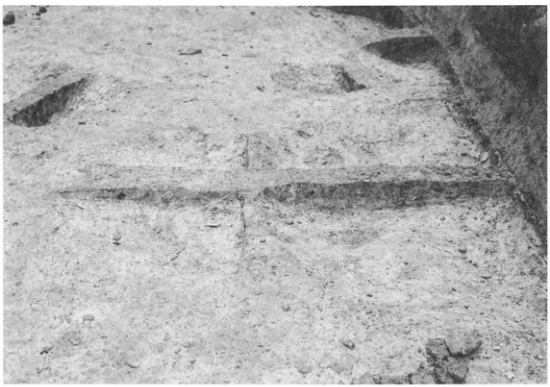
1区遺構面検出状況（南から）

1区遺構面検出状況（東から）

2区遺構面検出状況（南から）

2区遺構面検出状況（東から）

ピット1（西から）



ピット2・3（北から）

ピット4（西から）

ピット5（西から）

ピット6・7・8（東から）

ピット9・10・11・12（東から）

ピット13（東から）

ピット14・15、土坑1（南から）

土坑1（東から）

溝1（西から）

溝１（東から）

溝１内断面（東から）

須恵器出土状況（北から）

須恵器出土状況近景（北から）

布留式土器出土状況近景（東から）

調査地埋め戻し後（北から）

溝1下層出土布留式土器甕

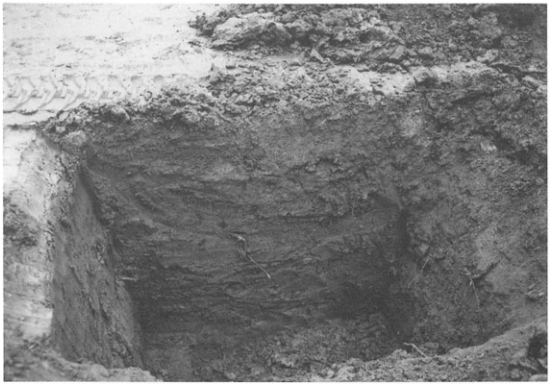
溝1中層出土須恵器杯蓋

図版27　七尾瓦窯跡1

調査地近景（西から）

調査トレンチ近景（西から）

図版28　七尾瓦窯跡2



調査トレンチ北壁（南から）

調査トレンチ埋め戻し（西から）

図版29　垂水遺跡1

調査地近景（北から）

調査トレンチ近景（東から）

図版30　垂水遺跡2

調査トレンチ西壁（東から）

調査トレンチ西壁細部（東から）

調査トレンチ下層掘削状況（東から）

調査地埋め戻し後（東から）

報告書抄録

ふりがな	へいせい27(2015)ねんどまいぞうぶんかざいきんきゅうはっくつちょうさがいほう
書名	平成27(2015)年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
副書名	片山荒池遺跡　岸部中遺跡B地点　高畑遺跡　七尾瓦窯跡　垂水遺跡
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	田中亮徳・賀納章雄
編集機関	吹田市教育委員会
所在地	〒564-8550　大阪府吹田市泉町１丁目３番40号　TEL(06)6384-1231
発行年月日	西暦　2016年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
かたやまあれいけいせき 片山荒池遺跡	すいたしかたやまちょう 吹田市片山町1-2309-4, 11	27205	147	34° 46′ 00″	135° 31′ 34″	20150701	3	試掘調査
きしべなかいせきびてん 岸部中遺跡B地点	すいたしきしべなか 吹田市岸部中3-941-1, 941-3の一部	27205	151	34° 46′ 45″	135° 32′ 12″	20150812・20150819・20150821	23	試掘調査
たかはたいせき 高畑遺跡	すいたしわだちょう 吹田市垂和町1466-3	27205	124	34° 45′ 50″	135° 31′ 43″	20150907・20150908	11	確認調査
ななおがようそあと 七尾瓦窯跡	すいたしきしべなか 吹田市岸部北5-51の一部	27205	32	34° 47′ 06″	135° 32′ 02″	20151126	3.4	試掘調査
たるみいせき 垂水遺跡	すいたしたるみちょう 吹田市垂水町1-794-3	27205	86	34° 46′ 05″	135° 30′ 16″	20151127	3.6	試掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
片山荒池遺跡	集落遺跡	古墳・中世	なし	なし	なし
岸部中遺跡B地点	集落遺跡	古墳・平安・中世	落ち込み跡	須恵器、土師器、黒色土器、瓦、瓦器、白磁	なし
高畑遺跡	集落遺跡	古墳・平安・中世	ピット、土坑、溝	土師器、須恵器	なし
七尾瓦窯跡	窯跡	奈良	なし	なし	なし
垂水遺跡	集落遺跡	旧石器～中世	なし	なし	なし

平成27(2015)年度

埋蔵文化財緊急発掘調査概報

片山荒池遺跡
岸部中遺跡B地点
高畑遺跡
七尾瓦窯跡
垂水遺跡

平成28(2016)年3月31日
編集　吹田市泉町1丁目3番40号
発行　吹田市教育委員会

この報告書は300部作成し、一部当たりの単価は555円です。